

2023年度 大阪河崎リハビリテーション大学リハビリテーション学部
リハビリテーション学科 作業療法学専攻

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ，学科等 の名称	専任教員数								非常勤 教員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち	助手			
							理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				
リハビリ テーショ ン学部 リハビリ テーショ ン学科 作業療法 学専攻	5人	1人	2人	3人	11人	9人	11人	0人	45人	9.5人	
計	5人	1人	2人	3人	11人	9人	11人	0人	45人	9.5人	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員的人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担 当 コ マ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎	科学的思考 の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	松尾 加代	専任
		日本語表現Ⅰ	8	山崎 澄子、磯田 恵子, 明治 裕子	兼任
		日本語表現Ⅱ	8	山崎 澄子、磯田 恵子, 明治 裕子	兼任
		医療倫理学	15	吉本 陵	兼任
		教育学Ⅰ	15	中裕 俊介	専任
		教育学Ⅱ	15	中裕 俊介	専任
		社会学	8	野村 和樹	専任
		社会福祉学	15	野村 和樹	専任
		コミュニケーション学	15	中裕 俊介	専任
		情報処理学入門	15	野村 和樹	専任
		情報処理学応用	15	河野 良平	兼任
		医療統計学	8	中谷 勇哉	兼任
		生物学	8	河野 良平	専任
		英文法	15	パトリック・ポーレン	兼任
		英文講読	8	松尾 加代	専任
		医療英語	8	岡田 守弘	専任
		英会話Ⅰ	8	パトリック・ポーレン	兼任
		英会話Ⅱ	8	パトリック・ポーレン	兼任
		スポーツ実技A	15	中裕 俊介	専任
		スポーツ実技B	15	中裕 俊介	専任
ダンスレクリエーション	8	松永 美規, 松川 恵梨子	兼任		
基礎ゼミ	8	各担当教員	専任		
専門基礎	人体の構造 と機能及び 心身の発達	形態・機能学解剖領域Ⅰ	15	後藤 隆洋	専任
		形態・機能学解剖領域Ⅱ	15	後藤 隆洋	専任
		形態・機能学生理領域Ⅰ	15	坪田 裕司	専任
		形態・機能学生理領域Ⅱ	15	坪田 裕司, 中村 美砂	専任
		解剖学実習Ⅰ	15	後藤 隆洋, 大籠 友博	専任
		解剖学実習Ⅱ	15	後藤 隆洋, 大籠 友博	専任
		生理学実習	15	坪田 裕司	専任
		運動学	8	佐伯 純弥	専任
		病理学	15	中村 美砂	専任
		発育発達学(含運動発達学)	8	畑中 良太, 高橋 泰子	専任
		形態・機能学特論解剖領域	8	後藤 隆洋, 大籠 友博	専任
		形態・機能学特論生理領域	8	坪田 裕司	専任
		医学概論	8	岡田 守弘	専任
	疾病と障害 の成り立ち 及び回復過 程の促進	小児科学	8	市川 貴之, 他	兼任
		内科学Ⅰ	15	岡田 守弘	専任
		内科学Ⅱ(含老年医学)	15	岡田 守弘	専任
		精神医学	15	堺 景子	専任
		神経内科学	15	出田 淳	兼任
		臨床神経学	15	新谷 亜紀	兼任

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	15	金澤 元宣	兼任
		整形外科学特論	8	中川 幸洋, 他	兼任
		臨床心理学	15	堺 景子	専任
		一般臨床医学	15	岡田 守弘	専任
		統合基礎臨床医学	15	坪田 裕司, 他	専任 兼任
		リハビリテーション医学	8	幸田 剣, 他	兼任
		産業医学	8	岡田 守弘	専任
		薬理学特論	8	池内 治平	兼任
		栄養学特論	8	中野 忠雄	兼任
		画像診断学特論	8	岡田 守弘, 他	専任
		救急医学特論	8	岡田 守弘, 他	専任 兼任
	保健医療福祉とリハビリの理念	リハビリテーション概論(含地域リハビリテーション)	8	大嶋 伸雄, 他	専任
		社会福祉援助技術論(含ケースワーク論)	8	野村 和樹	専任
		関係法規	8	野村 和樹	専任
		社会保障制度	8	野村 和樹	専任
		就労支援学	8	岸村 厚志	専任
		地域包括ケアシステム・リハビリテーション論	8	寺山 久美子, 他	専任 兼任
		障害者福祉論	8	野村 和樹	専任
	専門	作業療法治療学	研究法	8	上島 健, 他
卒業研究			22.5	中村 美砂, 他	専任
卒業論文			15	中村 美砂, 他	専任
基礎作業療法学		作業療法学概論	15	岸村 厚志, 中越 雄也	専任
		基礎運動学	8	白岩 圭悟	専任
		作業療法運動学	15	白岩 圭悟	専任
		作業療法運動学演習	8	白岩 圭悟	専任
		基礎作業学	8	武井 麻喜	専任
		基礎作業分析学実習	23	嶋野 広一, 水野 貴子	専任
		応用作業分析学実習	23	武井 麻喜, 中越 雄也	専任
作業療法管理学		作業療法管理学Ⅰ	8	谷口 英治	兼任
		作業療法管理学Ⅱ	8	谷口 英治	兼任
作業療法評価学		作業療法評価学	15	武井 麻喜, 水野 貴子	専任
		作業療法評価学実習	23	岸村 厚志, 他	専任
		身体機能作業療法評価学	8	嶋野 広一	専任
		身体機能作業療法評価学演習	15	武井 麻喜, 水野 貴子, 中越 雄也	専任
		高次脳機能評価学	15	水野 貴子	専任
		精神機能作業療法評価学	8	白岩 圭悟	専任
		精神機能作業療法評価学実習	15	白岩 圭悟	専任
作業療法治療学		統合作業療法学	15	岸村 厚志, 他	専任 兼任
		身体機能作業療法学Ⅰ	15	上島 健	専任
	身体機能作業療法学Ⅱ	15	上島 健, 他	専任 兼任	
	生活環境・行為学	8	岸村 厚志, 他	専任	

専門	作業療法 治療学	生活環境・行為分析学	15	岸村 厚志	専任
		生活環境・行為分析学実習	15	岸村 厚志, 中越 雄也	専任
		義肢装具学 (含実習)	15	田丸 佳希	兼任
		高次脳機能作業療法学	8	水野 貴子	専任
		高齢期作業療法学	15	嶋野 広一	専任
専門	作業療法 治療学	内部障害作業療法学	8	中越 雄也	専任
		発達過程作業療法学	15	中村 愛子	専任
		精神機能作業療法学	15	白岩 圭悟	専任
		精神機能作業療法学実習	23	巽 絵里	兼任
		応用作業治療学実習	23	武井 麻喜, 水野 貴子	専任
		レクリエーション学	15	中裕 俊介	専任
		作業療法学 PBL	8	大嶋 伸雄, 他	専任
		スポーツリハビリテーション 概論	8	久保 峰鳴, 村上 達典	専任
		スポーツリハビリテーション 実習	15	久保 峰鳴, 村上 達典 大前 千代子	専任 兼任
		園芸療法	15	田崎 史江	専任
		ガーデニング	15	田崎 史江	専任
		園芸論	15	田崎 史江	専任
		園芸療法実習Ⅰ	15	田崎 史江	専任
		園芸療法実習Ⅱ	15	田崎 史江	専任
	地域作業 療法学	生活環境学	15	古井 透	専任
		地域作業療法学	15	中越 雄也	専任
		地域作業療法学演習	15	中越 雄也	専任
		地域支援フィールドワーク	15	久利 彩子, 田崎 史江	専任
		基礎作業 療法学	健康増進・介護予防フィールド ワーク	15	今岡 真和
	認知症ケア学		8	嶋野 広一	専任
	公衆衛生学		8	古井 透	専任
	アロマセラピー		8	武田 ひとみ	兼任
	臨床ゼミⅠ		15	上島 健, 嶋野 広一	専任
	臨床ゼミⅡ		15	田崎 史江, 中越 雄也	専任
	臨床実習指導Ⅰ		15	上島 健, 嶋野 広一	専任
	臨床実習指導Ⅱ		15	田崎 史江, 中越 雄也	専任
	臨床実習指導Ⅲ		15	水野 貴子	専任
	臨床実習	臨床見学実習	22.5	岸村 厚志, 他	専任
		臨床検査・測定実習	67.5	岸村 厚志, 他	専任
		臨床総合実習Ⅰ	225	岸村 厚志, 他	専任
		臨床総合実習Ⅱ	180	岸村 厚志, 他	専任

各科目の教育内容詳細については、HP公表 (https://www.kawasakigakuen.ac.jp/academy/info_study.php)

(科目担当教員が3名以上の場合、他)

令和2年度以降入学者適用カリキュラムを掲載

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床見学実習	1年後期	臨床ゼミ I	1年前期
		臨床実習指導 I	1年後期
臨床検査・測定実習	2年後期	形態・機能学解剖領域 I	1年前期
		形態・機能学解剖領域 II	1年後期
		形態・機能学生理領域 I	1年前期
		形態・機能学生理領域 II	1年後期
		解剖学実習 I	1年前期
		解剖学実習 II	1年後期
		生理学実習	1年後期
		運動学	1年前期
		病理学	1年後期
		発育発達学(含運動発達学)	1年前期
		小児科学	2年前期
		内科学 I	2年前期
		内科学 II(含老年医学)	2年後期
		精神医学	1年後期
		神経内科学	2年前期
		臨床神経学	2年後期
		整形外科学	2年前期
		臨床心理学	1年後期
		一般臨床医学	1年後期
		リハビリテーション概論(含地域リハビリテーション)	1年前期
		社会保障制度	1年前期
		作業療法学概論	1年前期
		基礎運動学	1年後期
		作業療法運動学	2年前期
		作業療法運動学演習	2年後期
		基礎作業学	1年前期
		基礎作業分析学実習	1年後期
		応用作業分析学実習	2年前期
作業療法評価学	1年後期		

臨床検査・測定実習	2年後期	作業療法評価学実習	2年後期
		身体機能作業療法評価学	2年前期
		身体機能作業療法評価学演習	2年前期
		高次脳機能評価学	2年前期
		精神機能作業療法評価学	2年前期
		精神機能作業療法評価学実習	2年後期
		生活環境・行為学	2年前期
		生活環境・行為分析学	2年後期
		高齢期作業療法学	2年前期
		発達過程作業療法学	2年前期
		園芸療法	2年後期
		生活環境学	2年後期
		臨床ゼミⅡ	2年前期
		臨床実習指導Ⅱ	2年後期
臨床総合実習Ⅰ	3年後期	研究法	3年前期
		身体機能作業療法学Ⅰ	3年前期
		身体機能作業療法学Ⅱ	3年前期
		生活環境・行為分析学実習	3年前期
		義肢装具学（含実習）	3年前期
		高次脳機能作業療法学	3年前期
		内部障害作業療法学	3年前期
		精神機能作業療法学	3年前期
		精神機能作業療法学実習	3年前期
		応用作業治療学実習	3年前期
		地域作業療法学	3年前期
		臨床実習指導Ⅲ	3年前期
		就労支援学	3年後期
		地域包括ケアシステム・リハビリテーション論	3年後期
作業療法管理学Ⅰ	3年後期		
地域作業療法学	3年前期		
臨床総合実習Ⅱ	4年前期	卒業研究	3年後期
			4年前期
		作業療法管理学Ⅱ	4年前期

各実習に参加する為の臨床実習要件を定める

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検、評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検、評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検、評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検、評価体制記入してください。

自己点検、評価組織名	自己・点検評価委員会
委員名（委員長）	武田 雅俊
組織の開催頻度	年3回程度
組織の取り組み内容	・自己点検・評価の実施
	・自己点検・評価結果の検証及び活用
	・点検・評価結果に係る報告書の作成及び公表
自己点検、評価結果の公表	毎年、HP 公表 (https://www.kawasakigakuen.ac.jp/academy/info_assessment.php)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	教務委員会委員長、各専攻長、事務局責任者、事務局担当部署等
	改善の仕組みの実際	毎年、教務委員会で「シラバス記入要領」を策定し、科目ナンバー、授業形態、開講年次、単位数などの基本項目のほか、次の項目を記載することを全教員に求めている。実務経験と授業内容の関連、授業内容の要約、学修目標及び到達目標、対面、遠隔授業の進め方、学修上の助言、授業時間外に必要な学修、授業計画、成績評価方法、教科書、参考文献、履修要件、オープンな教育リソースなど。また、シラバスの記載内容が適正であるかといった観点から、事務局による点検（記入漏れ、誤記、情報不足等の形式上のチェック）を行っている。また授業アンケートの集計結果は、FD研修で分析したうえで、次年度の授業の改善を促している。

【自己評価 4-3】自己点検、評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>平成 28 年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による「認証評価」を受け、「適合」認定されている。</p> <p>HP 公表 平成 29 年度 大学機関別認証評価評価報告書</p> <p>(https://www.kawasakigakuen.ac.jp/files/pdf/h29_jikohyouka.pdf)</p> <p>令和 2 年度のリハビリテーション教育評価機構の評価認定審査を受け、認定されている。</p> <p>認定期間は令和 2 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までとなっている。</p> <p>(https://www.kawasakigakuen.ac.jp/files/pdf/r02_jcpre_pt.pdf)</p>
